

寒い、暖かい、暑いなど繰り返しながら桜草の咲く時期を迎えました。秋や冬に鉢をひっくり返し、根茎を掘り出して植え替えをして、芽がでるのを心待ちにしてきました。

お友達の千鶴さん宅では他の花に先駆けて、唐船が花盛りでした。(4月6日)

からふね 昭和前期より存在する野生的な品種。関西では「月の都」が唐船の名で栽培されることがある。葉の色も浅黄緑色ではかなげな感じがある。(鳥居恒夫氏 花図鑑「桜草」による)



唐 船



展示品 玉珊瑚

帯笑園の桜草展

4月9日 原の帯笑園で桜草の鑑賞とお琴の演奏会、茶会がありました。帯笑園は江戸時代後期に江戸と上方の文化交流の拠点としての役割を果たし、文書や書画などがのこっており、この日に公開されていました。また、色取り取りの桜草が展示されて見事でした。昨年の浜松のフラワーパークの展示より立派かなと思いました。



水やりと増し土を!!

雨の多いこの頃ですが、忘れないでください。さくらそうは匍匐茎から出た芽が、成長するに従って、表土上に出る特性をもっていますから、これをそのままに放っておくと、新芽が表土上に飛び出して緑色となり、いじけて小さく固まってしまう。必ず実行を!!